

# 「平成30年7月豪雨」と 防災対応について

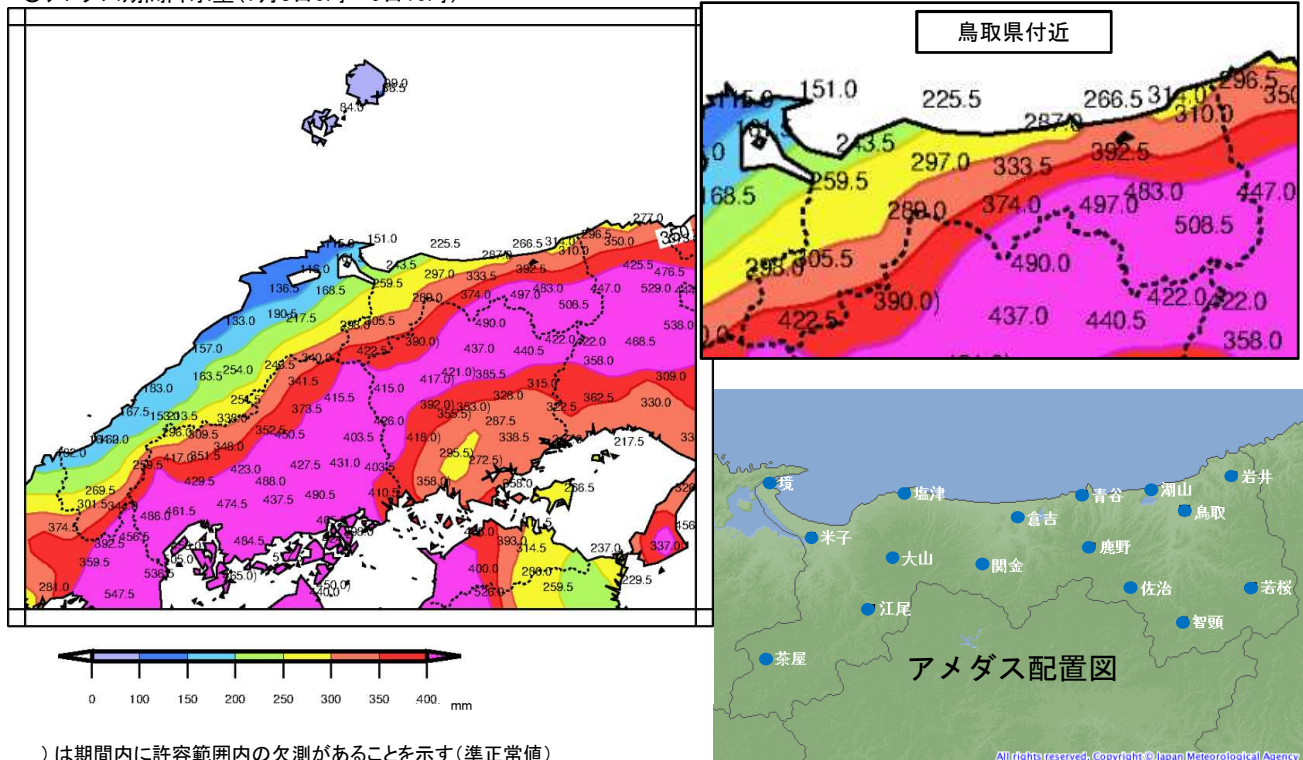
鳥取地方気象台

## 説明項目

- 降水量（3日～9日：台風+前線による）
- 鳥取県内のデータ
- 特別警報を公表した頃の危険度分布
- 防災対応（時系列）
- 平成30年7月豪雨の振り返りから見えてくること
- 防災情報が活用され、効果を上げるための要件
- 防災情報の伝え方について
- 住民の避難行動等を支援する防災情報の提供

# 降水量（台風＋前線：3日～9日）

○アメダス期間降水量（7月3日0時～9日10時）



) は期間内に許容範囲内の欠測があることを示す(準正常値)  
] は期間内に許容範囲を超える欠測があることを示す(資料不足値)

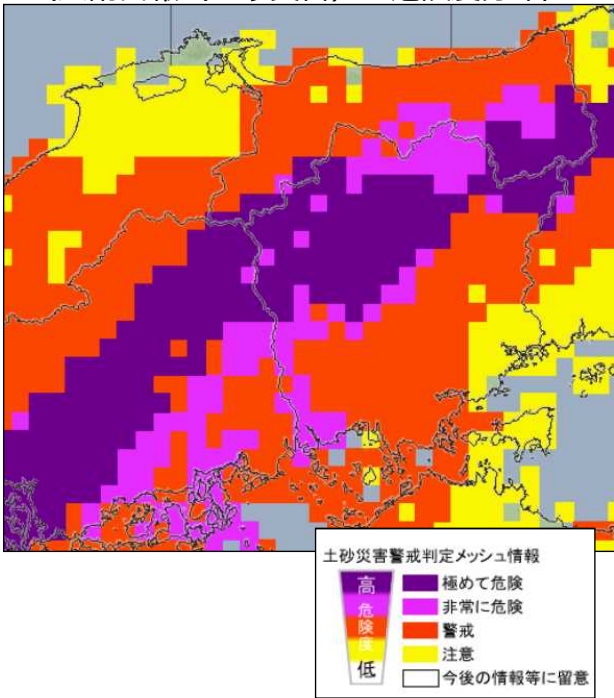
## 鳥取県のデータ

- 3日00時～9日10時までの **総降水量**  
智頭：508.5mm [7月降水量の平年値：200mm少々]  
佐治：483.0mm、若桜：447.0mm、鹿野：392.5mm、関金：333.5mm
- 月最大24時間降水量**  
鳥取：187.5mm [鳥取での7月の1位を更新]
- 日降水量**：県内3箇所です7月の1位を更新  
佐治：171.0mm、若桜：166.5mm、智頭：194.0mm
- 最大1時間降水量**  
大山町大山：38.5mm（上記期間中で最大）  
智頭：36.5mm、佐治：33.0mm、鳥取：29.0mm、若桜：29.0mm  
（極めて大きな値ではない）

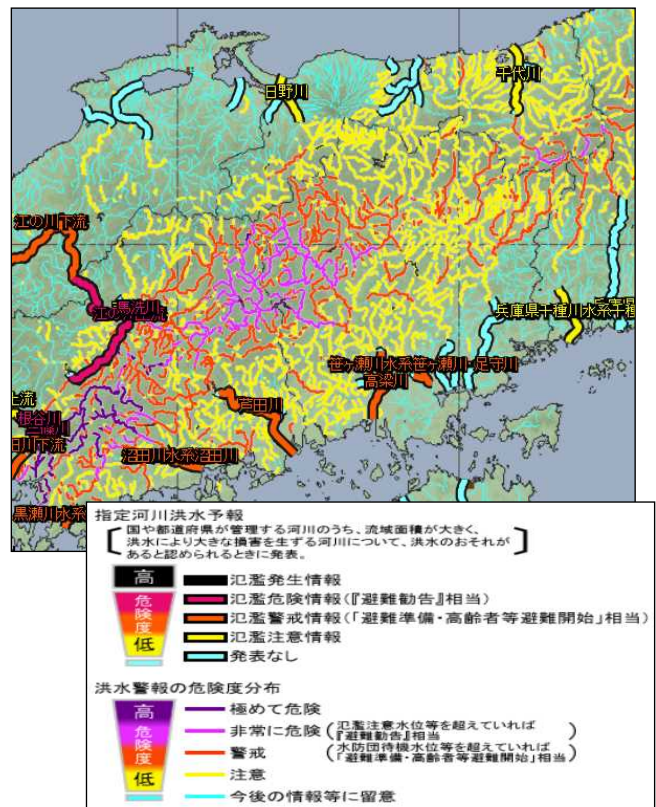
# 大雨特別警報を公表した頃の危険度分布

7月6日20時（広島県、岡山県、鳥取県に大雨特別警報を公表した直後）

土砂災害警戒判定メッシュ情報  
(大雨警報（土砂災害）の危険度分布)

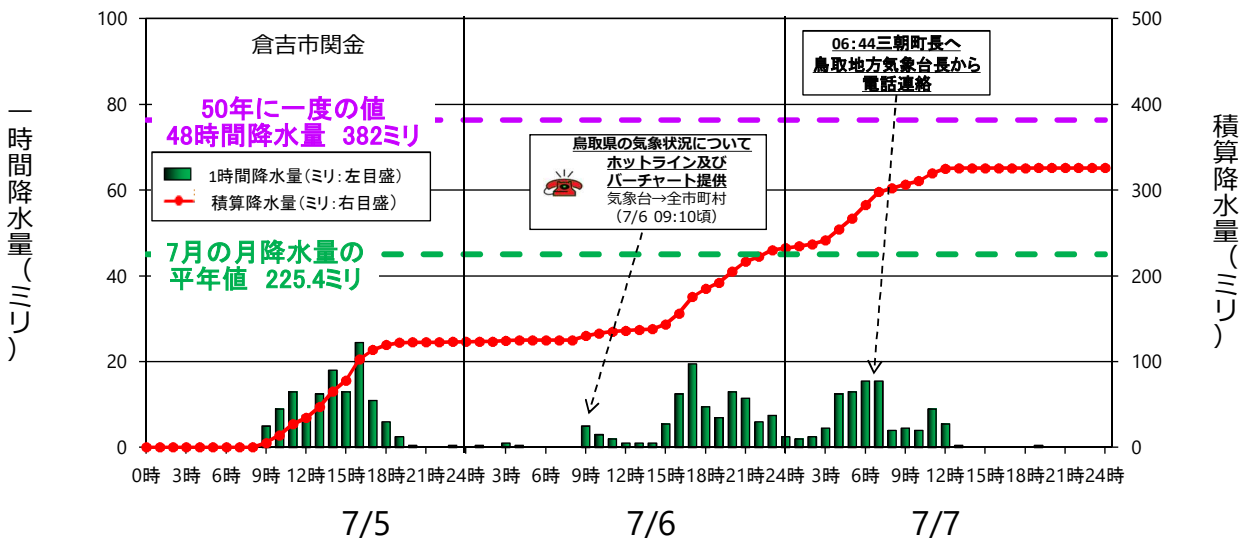
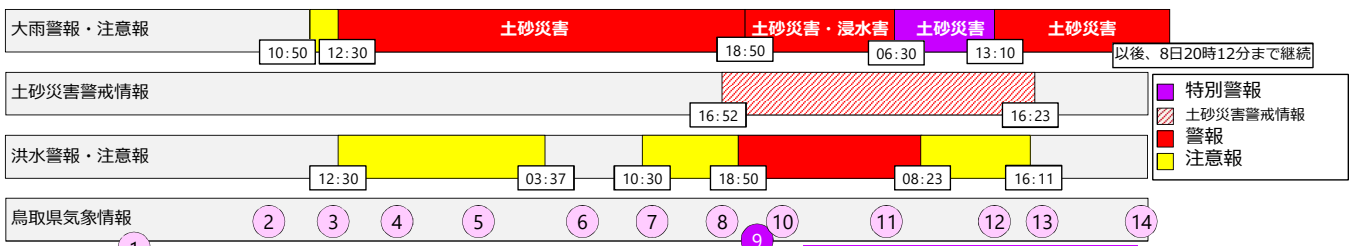


洪水警報の危険度分布



## 防災対応(三朝町の事例)

### ●鳥取県三朝町に対する警報等発表状況と倉吉市関金の観測値



## 平成30年7月豪雨の振り返りから見えてくること

- 6日の小康状態の時に、気象台から担当者レベルのホットラインを行なった結果、避難所の開設準備など有効に動いていただいた市町もあった。
- 避難勧告や避難指示を発令しても、実際に避難する住民は少なかった。
- ホットラインについては、各レベルで各機関から相当数あり「助かった」との声を頂いた一方、「どこからどの情報をもたらしたか分からなくなった」などの混乱する声もあった。
- 各機関からの電話が多く、すべての電話を防災担当で共有できなかった。
- 多くの市町村で「避難所が土砂災害警戒区域に入っているので、洪水害や土砂災害等の災害について総合的に考える必要がある」との声があった。

## 防災情報が利活用され、効果を上げるための要件

防災情報を適時・的確に発表すること

×

防災情報を迅速・確実に伝えること

×

利用者が理解して活用すること

**注)** どれかが欠けると効果が上がらない: 各要素の積で決まる  
日頃からの備え、説明や訓練が重要

# 防災気象情報の伝え方について

気象庁：「防災情報の伝え方に関する検討会」で検討中  
避難などの防災行動に一層役立てて頂く……  
検討結果を近日中に取りまとめ公表予定

- ・ 危機感を効果的に伝えていくこと。
- ・ 情報を使いやすくすること。
- ・ 情報を分かりやすくシンプルに伝えていくこと。
- ・ 特別警報の位置づけや役割を分かりやすくすること。

## 住民の避難行動等を支援する防災情報の提供

### 代表的な取組例 4 住民の避難行動等を支援する防災情報の提供

- 平時の災害リスク及び取るべき避難行動の周知に加え、災害発生のおそれの高まりに応じ、住民の避難行動等を支援する防災情報の発信が必要。
- 災害対応にあたる市町村が、適時的確に避難勧告等を発令するための支援が必要。

**ポイント①** 住民が取るべき行動を5段階に分け、行動を促す情報と行動を取る際の判断に参考となる情報との対応を明確にし、出された情報と取るべき行動を直感的に理解しやすいものとし、住民の主体的な行動を支援

**ポイント②** 警戒レベル4に避難勧告、避難指示(緊急)、警戒レベル5に発生情報を位置づけ、避難のタイミングを明確化。

**ポイント③** 避難勧告等の発令に資する情報を、気象庁、施設管理者等が市町村に提供し、市町村の発令判断を支援。

警戒レベル	住民が取るべき行動	避難情報等 (市町村)	防災気象情報・水位情報等 (気象庁、国土交通省、都道府県)
(洪水・土砂災害) 警戒レベル5	既に災害が発生しており、命を守るための最善の行動をとる	行動を促す情報 災害の発生情報 (出来る範囲で発表)	自ら行動をとる際の判断に参考となる情報 (市町村の避難勧告等の発令に資する情報)
(洪水・土砂災害) 警戒レベル4	・速やかに立退き避難等 ・屋内での待避等の安全確保措置等、直ちに命を守る行動	・避難勧告 ・避難指示(緊急)	指定河川洪水予報、土砂災害警戒情報、警報、危険度分布等 ✓ 住民の自発的な避難に資する情報を公表 ✓ 気象庁と施設管理者等が連携し、避難情報のレベルごとに、発令に資する情報を市町村へプッシュ情報を基本として提供
(洪水・土砂災害) 警戒レベル3	高齢者等は立退き避難 その他の者は立退き避難準備等	・避難準備・高齢者等避難開始	
(洪水・土砂災害) 警戒レベル2	避難に備え自らの避難行動を確認する ・ハザードマップ等により災害リスク、避難場所や避難経路、避難のタイミング等を再確認 ・避難情報の把握手段の確認、注意等		行動を促す情報 <b>注意報</b>
(洪水・土砂災害) 警戒レベル1	災害への心構えを高める ・防災気象情報等の最新情報に注意等		<b>警報級の可能性</b> ※ <small>(※警報級の発表が予想される時に、その可能性を高・中・下の2段階で発表する情報) (※情報の名称変更については、別途の議論を経て年度内に確定)</small>